家族葬とは
～気になる5つの疑問～

もしものときの
安心ツール
お役立ち情報紙

あんしる新聞

Vol.30
2026/11

【①家族葬って？】

家族葬とは、家族や親族、親しい友人など、限られた人たちで故人を見送るお葬式のことです。

一般葬のように、近所の方や仕事関係の方など幅広く参列者を招くのではなく、参列する人をある程度限定して行うことが特徴です。故人との思い出を語り合いながら、落ち着いてお別れの時間を過ごしやすいという面もあります。

ただし、家族葬に明確な定義はなく、参列者の人数や葬儀の内容に全国共通の決まりがあるわけではありません。

【②どこまでを家族？】

家族と聞くと、配偶者や子ども、親、兄弟姉妹などを思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。孫やおじ・おば、甥・姪、いとこなど、どこまでを家族と考えるかは人によって異なります。

また、家族葬という名前ですが、参列者を家族だけに限定する決まりはありません。親族や親しい友人など、故人や遺族の希望に合わせて参列者を決めることができます。





【③一般葬と何が違う？】

家族葬と一般葬の大きな違いは、主に参列者の範囲です。

一般葬では、親族だけでなく、友人や近所の方、仕事関係の方など幅広く参列者を招きます。一方、家族葬では、家族や親族、親しい方など、参列者を限定して行います。

家族葬では、故人の好きだった物を祭壇に飾ったり、好きな曲を流したりするなど、故人や遺族の希望を取り入れたお別れができる場合もあります。また、香典を受け取るかどうかは遺族の意向によって異なります。

比較	家族葬	一般葬
規模	小規模	大規模
主な参列者	家族・親族・親しい友人など	家族・親族・友人・仕事関係・近隣住民など
参列者の人数	人数を限定することが多い(20名まで。など)	基本的に人数を制限しない
香典・供花	辞退する場合がある	受け取ることが一般的
通夜	省略・簡略化する場合がある	参列者に合わせて用意することが多い
費用	規模を抑えやすいが、内容によって異なる	参列者や会場の規模が大きく、費用が高くなりやすい

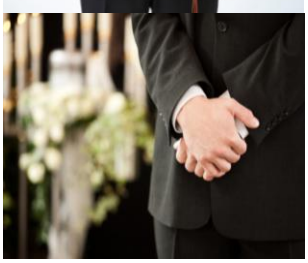
【④葬儀はどんな流れ？】

家族葬は、亡くなった後、故人を安置し、葬儀社との打ち合わせを行うことから始まります。

その後、お通夜、葬儀・告別式、火葬という流れで進みます。お通夜では故人を偲び、葬儀・告別式では最後のお別れを行い、火葬へと進むのが一般的です。

ただし、お通夜を行わず、葬儀・告別式と火葬を一日で行う「一日葬」などの形式もあります。宗教や地域の慣習、家族の希望によっても流れは異なります。





【⑤費用相場は？】

家族葬の費用は、参列者の人数や会場、葬儀の内容などによって異なります。

弊社グループの「コープの家族葬ウィズハウス」では、家族葬の費用の目安を約40万円～150万円としています。また、基本プランの料金だけでなく、会場費や施行管理手数料、飲食費、返礼品、お布施などが別途必要になる場合もあります。

そのため、表示されているプラン料金だけで判断するのではなく、何が含まれているのか、追加費用が発生するのかを事前に確認することが大切です。

※費用は地域や葬儀の内容、契約条件などによって異なります。

あんしる
介護施設・老人ホーム紹介

〒060-0807
札幌市北区北7条西1丁目2-6
NCO札幌16階
☎：0120-136-777
受付時間 9：30-17：30
✉：info@anshiru.jp
HP：https://anshiru.jp/

←YouTube

Instagram→

←TikTok

施設探し、身元保証、不動産など『終活』に関わること、お気軽にご相談ください。

家族葬は、参列する人を限定し、故人とのお別れを大切にできるお葬式の形のひとつです。先月、私の祖父が逝去し家族葬をしました。大切な人とのお別れはいつ訪れるかわからないものだと、改めて感じました。親族のみの式だったため、気を使いすぎることなく、たくさん泣いて、たくさん笑ってお別れすることができました。自分や家族のお葬式もいつになるか分かりません。自身のお葬式や喪主への希望など、元気なうちから家族で話し合うことも大切だと思いました。皆様もこの機会に考えてみてはいかがでしょうか。